

はるはる

～凸と凹～

11月号 No.19

よっしーの たびと探し



1の月半ばに福島市文化センターにてある研修を受けてきました。
その名も**放課後児童支援員 認定資格研修!**

全4回に亘る研修の初回を受けてきました。この研修で取得する「放課後児童支援員」という資格は、子ども預かり事業が市から認可を受けるために必要な資格なので大変気合が入ります!

実は、放課後の子どもたちの居場所づくりは正式名称を「放課後児童健全育成事業」といい、国が必要性を認めた事業です。根拠となる法律は児童福祉法、具体的な運営等については「放課後児童クラブに関する運営方針」により定められています。

今回の研修では主に3つのことを学びました。

- 1つ目は、子どもには4つの権利があるということ
 - ・生きる権利 …… 健康に生まれ、健やかに成長する権利
 - ・守られる権利 …… あらゆる種類の差別、虐待、搾取から守られる権利
 - ・育つ権利 …… 教育を受ける権利
 - ・参加する権利 …… 自分に関係のある事柄について自由に意見し、活動する権利

2つ目は、放課後児童育成支援事業は、遊びや生活を通して、発達度合いに応じた健全な育成を図ることが目的であり、それは子どもの権利を守ることに繋がると言うこと。

3つ目は、4つの権利を守る事と運営方針は互いに深く関わり合っているということ。

全4回のうち、初回でしたが、子どもとの向き合い方、児童クラブのあり方について、極めて本質をついた内容でした。

子どもは一人ひとりが個性を持った人間です。大人同様に尊重する必要があります。ですが心身ともに未成熟な事も確かです。それを承知した上でこの子どもに伝わるような接し方をしなくてはなりません。難しさは大いにありますが、講師の先生のお言葉をお借りして『今の子どもと向き合うことが未来につながる』と信じて、**一所懸命にがんばります!**



ふたりのビジョン



はるはる7月号にも掲載をさせていただきました下條家のビジョンになります。まずは、ボランティアを受入れる拠点を作り、そこからスタートをさせていきたいと考えています。



2日目のコイコイ倶楽部さんとの大根引き抜きは、参加者の皆さん大喜びでした。まだまだ、田人には魅力的な場所も人もいますので、広げていきたいと思っています。

ついに! 私たち夫婦が住んでいく**拠点を決めました!**これまでに沢山の方が田人町内を案内してくださり、**本当にありがたいございました!**
決めた拠点の場所は、**南大平の高松**になります! 現在、その場所は、地目が「畑」になっていますが、地主さんや、南大平前区長の小野順一さんの手助けを借り、地目変更を申請中です。順調に行けば11月中旬から地目が変わり、建物が建てられる様になります。まずは、敷だらけになつてしまった土地の整備から始めていきます。そして、来年度の任期中までにボランティア受入のできる小さな拠点を作る予定です。
また、ただ拠点を作るだけではな

協力隊
おっさんの方

ゆるい
しものついな!



く協力隊として、拠点作り自体を体験イベントとして活用する事で、田人町外からの若者たちを呼び込むきっかけを作っていく予定です。しかし恥ずかしながら、資金面も技術も乏しいため、皆様にはご協力をお願いすることがあると思います。その時は、何卒よろしくお願いいたします!

福島 島県からの依頼で、貝泊コイコイ倶楽部さんと共同し**家族移住に対する移住体験会**を行いました! 参加者は、3名と、運営者3名の計6名です。
小学校や愛宕山登山、おふくろの宿に泊まり、やさしい館、貝泊で農体験と、とても濃厚な1泊2日でした。参加者からは、「**田人の人の暖かさを実感できました。また、田人にきます!**」と嬉しい声もいただきました。初めての町案内も成功に終わり、今後も移住促進活動をやりたいと思います。

このコラムは、田人の住民を、楽しく紹介し、田人の和を広げよう！といった企画です。

第5回は、しもが担当させていただきます。今回取材をさせていただきましたのは、石住地区才鉢にお住まいの大竹 保男（おたけ やすお）さんです。

保男さんは、昭和23年生まれの72歳。昭和44年から平成21年までの40年間を農協の職員として、働かれていたそうです。

現在は田人町の農協職員は5人と少数精鋭で営業をされていますが、入社した昭和44年当時の農協は、44名と沢山の職員たちがいたそうです。当時の田人町は、こんなにやうく農家・酪農・林業が一番盛んだった時代で、なんと、こんなにやうくだけで4億円もの生産量があったそうです！しかしながら、中国から安い輸入品の増加や国内消費も減ってきた事で、次第に田人町を支えてきたこんなにやうくが売れなくなってしまうた...そんな激闘の時代を農協職員として多くの農家を支えるために、と尽力を尽くされてきました。

定年退職をされてからも生まれ育った田人町に恩返しをしたいと様々な活動をされ、現在では、社会福祉協議会会長・老人クラブ会長など、沢山の方から支持をされ、「任されたからには田人町のために！」と心に決めて沢山の活動をされています。



保男さん宅の離れにあるログハウスで取材をさせていただきました。趣味で溢れ綺麗に整理整頓されている空間がとても素敵なお場所でした。そんな保男さんの好きなお酒を背景にしたお写真です。

そんな保男さんに「これからの田人町をどんな風になつて欲しいですか？」と、「質問をさせていただいたところ、「田人町は、若者が少なくなって人口減少をして行ってしまうことは、日本全体が人口減少をしている今の時代仕方のないかもしれない...だからこそ、田人に住んでいる一人一人が、楽しく暮らせる場所にしていきたい。そして、ネットを使いどこでも仕事ができるようになってきた時代、協力隊の様な田舎で暮らしていきたいと思う若者たちや田人を故郷に持つ人たちが、楽しく暮らしている住民をみて、田人に住みたい！と思うそんな町になつて欲しい。」と、話されていました。きつと、田人町の農林業を陰ながら支え時代の流れに悩み、今も田人のために活動をされている。そして、沢山の本を読まれ勤勉家の保男さんだからこそ、出てきた熱い想いなのだと感じました。今回インタビューをさせていただきました、田人町の良さと田人町に暮らす皆さんの幸せな笑顔を少しでも多くの若者たちに伝える活動をしていかなければいけないのだと気づくことができました。

貴重なお時間をいただきました本当にありがとうございます！
次回の担当はよっしーです。お楽しみにください！

たびとふるさと今昔物語

方言アラカルト

田人方言

「今日は、ゴミのおんだす日だったが、そこらのきだんばしいやづ、さらエあづめで袋さへれで、おんだじておぐべ。」

解説

「今日はゴミを出す日だったな。そこらの汚らわしいもの、かき集めて袋に入れて、出しておこう。」

お借りした「たびとふるさと今昔物語」の一部抜粋です。大正末から昭和初期の大字旅人(旧旅人村)の方言を現代語の解説をつけて監修したものです。標準語しか知らない身からすると、同じ日本語、同じ内容なのにこうも言葉が違うのかと驚きです。もっと知りたい！田人の方言！

栗の数が限られているため
数量限定となります。

栗をゴロっと1つ

栗をたっぷり濃厚生クリーム

甘さ控えめのスポンジケーキ

隠れて栗がゴロゴロ

HITO-TABI ひとたび通信

秋の期間限定！数量限定！

田人産の栗を使用したスイーツができました！

栗がまるごと入った
マロンカップケーキ ￥400

11月・12月 営業のお知らせ

営業日 : 水・木・金・土

営業時間 : 11:00~15:00